

リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議の概要

1 日 時 平成 29 年 1 月 20 日（金） 午後 1 時から 2 時 30 分まで

2 場 所 県飯田合同庁舎 講堂（及び県庁知事室）

3 会議の成果

○ 県及び地域(市町村等)の役割分担について確認

→ 二次交通については、広域的な課題として取り組んでいく

4 会議内容(発言要旨)

①リニアバレープロジェクトの今後の展開について

【知事】

- 役割分担をクリアにした方がよい。誰が中心にやっていくかを決めて、伊那谷自治体に逐次報告をしていってはどうか。

【出席者】

- 二次交通は J R 飯田線の高速化が必要。スピードを速くしないと二次交通とならないし、乗換新駅までのアクセス方法や移動手段を明確にしないといけない。県で描いてもらいたい。
- 移住定住や産業振興は各市町村が主体で、全体を県が応援するイメージ。
- 基本的な方向性はまとめたとおりで良いと思う。
- 広域観光について、ルート設定や全体のプロモーションは、上下伊那一緒に取り組めると思う。D M O はどう連携するかを一緒に考えていけばよい。
- 二次交通は、県にリーダーシップをとっていただき、各自治体はスピード感をもって取り組む。
- 民間投資は 1 自治体では難しい面もあり、県も一緒にやるのが早い。
- 景観も三風の会の取り組みなど広げていく。企業への動機付けにもなる。
- 二次交通については、上下伊那では道路を開けても条件が違う。下伊那では、絵を描いても進まないのが現状であり、リニア駅からのインフラ整備は国県へお願いする。
- 二次交通のリーダーシップは県でお願いする。併せて R153 のバス運行なども考えてはどうか。
- 土地利用などは基礎自治体中心となるが、市と町村では力量が違う。

【知事】

- 二次交通に関して強い要望があると理解。県としても取り組んでいきたい。
- また、二次交通は駅周辺をどうするかということとセットの部分があるため、平行して考えないといけない。リニア駅や乗換新駅の考え方に対する議論も必要。

②リニア長野県駅(仮称)の周辺整備について

【出席者】

- 10年後の交通体系や需要を見越した視点で考える必要がある（自動運転、動く歩道）。
- 駐車場数はどのくらいあるのか。また、乗換新駅までのアクセス方法はどうなるのか。リニア駅と飯田線とは高低差がかなりある。

⇒【飯田市】

- ・ 駐車場数は、P & Rとして750台を想定。6,800人/日の乗降客数等をもとに推計をした。
- ・ 新しい交通への研究や施設的なものも検討していく。

【出席者】

- 飯田線の利用として、今年信州D Cの本番もあるため、「あずさ」を伊那谷へ乗り入れることを提案していったらどうか。「山」をテーマに各アルプスを目的に、岡谷で切り離し飯田線へ入ってくる。こういったことをJ R東海や東日本などと一緒に取り組みればおもしろい。
- 地元としては駐車場整備の要望が一番だが、それは車の活用が便利だからである。外の人はどう思うのか。どういう乗り物やルートを使ってどこへ行くのか。具体的に考えないといけない。
- 飯田から北方面の飯田線を考えると、特急を2～3本入れて欲しい。通勤や通学、観光など目的により車両を変えるなど考えて欲しい。
- 飯田市の周辺には高森町や喬木村などがある。そういったところも一緒に考えて行って欲しい。
- I C TやI O Tなど新しい産業を含め、産業のイメージづくりを今からしていかなければいけない。世界の中の信州や伊那谷といった、マッチングと発信についての戦略も大切。

【知事】

- 飯田線活用の提案をいただいた。信州D Cでも考えていきたい。
- 県内には、山梨県駅や岐阜県駅を使う方もいると思うが、そういった方たちも含め、**長野県駅を利用してもらうための必然性が大事。**
- 静岡県知事との懇談では、静岡は内陸へ目を向けていくようである。三遠南信等により、積極的な人の呼び込みを図っていきたい。
- **飯田線との結節は、飯田市も前向きに考えており、県も一緒に考えていきたい。**
- **二次交通をどう組み立てるかによって駅前広場も変わってくる。リニア駅は10年後を見越し、長野県駅として相応しいものを考える。**
- **リニア駅周辺の外側の土地利用についても議論が必要。**
- **リニア県駅を中心にどう地域を作っていくか。早くコンセプトを決めて進めていく。また、県へ期待されている部分は二次交通であると認識。**
- 地域振興局が立ち上がるのにあたり、県の次期5ヵ年計画も地域編を強化していきたい。

リニアバレープロジェクトの展開方針(案)

(1月20日)伊那谷自治体会議資料①

方針(案)

- ① 各市町村の関連構想・施策とリニアバレープロジェクトの関連付けを整理
- ② 広域的テーマと、地域的テーマに分類し、それぞれの役割分担を明確化
 - 広域的テーマ：伊那谷自治体会議(または県レベル)で取組を進めるもの
 - 地域的テーマ：地域(市町村、広域連合、県現地機関、関係団体など)が主体となって取組を進めるもの

各市町村の関連構想・施策

関連付け・整理

リニアプロジェクト

① リニア時代のまちづくり

- ・スマートシティ(環境配慮型都市)
- ・広域景観育成
- ・都市拠点機能の向上(民間投資)
- ・二次交通
- ・JR在来線乗換新駅

② 伊那谷の定住・交流人口の増加

- ・移住定住・二地域居住
- ・広域観光

③ リニアを活かした産業振興

- ・産業振興
- ・本社・研究機能などの企業誘致

横断的テーマ

- ・隣県連携による施策推進
- ・最先端ICT利活用の推進

分類

広域的テーマ

- 伊那谷自治体会議で方向性を決定
- 調整ができたものからプロジェクトチームなどの場で検討を進める
 - ・「JR飯田線乗換新駅」設置についてH29.1検討開始
(「資料1-3」参照)
 - ・他の取組についても順次進める

地域的テーマ

- 市町村、広域連合が主体となって取組を推進
- 地方事務所(地域振興局)及び県担当課が取組や活動を支援
- 既に推進主体となり得る地域団体等がある場合は、その場を活用し、関連テーマについて議論することも想定
- 伊那谷自治体会議とも連携しながら検討を推進

	地域としての取組事例			駒ヶ根市	【出典】 駒ヶ根市まちづくり構想図、「中央アルプス山麓」活用プラン概要等
	飯田市	伊那市	駒ヶ根市		
<p>① 未来を先取りしたリニア時代のまちづくり</p> <p>＜取組コンセプト＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 民間投資を誘発するまちづくり ▶ 伊那谷で豊かに暮らすための環境づくり 	<p>【出典】 「リニア駅周辺整備基本計画」の考え方、リニアを活かしたまちづくりの展開</p>	<p>【出典】 INA Valley リニア・ムーヴメント10</p>	<p>【出典】 駒ヶ根市まちづくり構想図、「中央アルプス山麓」活用プラン概要等</p>	<p>テーマ設定・取組主体・展開方針</p> <p>広域的な取組と地域的な取組、及び主体についての整理 ※事務局整理</p>	
<p>■ 未来技術の導入とスマートシティの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動運転やライドシェアなど次世代の交通手段の研究（二次交通） ・低炭素エネルギーによる環境都市づくり（ゼロエネルギービル等） ■ グリーンインフラの展開 ・伊那谷を一体的にとらえ、自然環境に配慮した広域的な景観形成への取組（統一案内看板の導入検討などを含む） ■ 都市の拠点機能の向上 ・MICE、滞在、文化交流等の都市活動を支える機能の強化 ■ 飯田線乗換新駅設置 ・設置に向けての検討（構造、設置費用） ・リニア長野県駅とのアクセスの検討 ・JR東海への働きかけに係る調整 	<p>■ 広域交通拠点、多様な交流の起点となるリニア駅周辺のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多面的な機能が期待できるグリーンインフラの導入 ・再生可能エネルギーの活用等、低炭素化の推進 ■ リニアを活かした市内各拠点のまちづくり ・中心拠点（まちなかMICE等） ・広域交通拠点及びその周辺（新たな産業振興の拠点等） ・交流拠点（新たな観光施設の創設等） ・地域拠点（田園回帰施策等） ■ JR飯田線乗換新駅設置 ・リニア駅から飯田線へ乗り換えするための新駅設置を検討 	<p>■ 交通（ゲート・ツー・ドアの実現）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次交通の確保 ・高速バスの定時運行 ・デバロッパーの誘致 ・地域の魅力発信拠点化等 ・JR飯田線の活性化 ・交通インフラ間の結節、イベント列車の運行等 ■ 住居（コンパクトシティの形成） ・ゾーニングによる土地利用 ・子育て、若者、高齢者世代、クリエイティブ層 ・リノベーションの推進 ・空き家バンクの登録拡大、サテライトオフィス等の立地促進 ■ 地域活力（官民協働による地域シリエンスの強化） ・バーチャル・マーケットの実施 ・マイタウンマインドの醸成 ・公共交通の維持・持続 ・定住自立圏の形成 	<p>■ 中央アルプス山麓の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央アルプス山麓一体の魅力づくり、新たな観光資源、交流拠点づくりの推進 （大使村構想） ・大使館交流の場としての国際会議（MICE）、ワールドブース、レストラン等の場で世界的な魅力発信 （健康の森構想） ・森林セラピー、グリーンな健康産業、産学官連携健康プログラム等、駒ヶ根＝健康の場発信 （自然エネルギーの活用） ・小型モビリティ（自動運転）実証 ■ 市街地再構築（リノベーション） ・集約型都市づくりの推進 ・市街地再開発の検討 ・JR飯田線駒ヶ根駅の利活用 ■ 次世代に伝える景観創り ・自然と調和したまちなみ創造 	<p>ロ リニア関連道路、SIC等のインフラ整備（現在推進中）</p> <p>ロ 民間投資による拠点整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広域（自治体会議、県） まちづくり勉強会・事業者との情報交換会、交流拠点機能（MICEなど）の検討 ○ 地域（市町村） 構想・計画に基づきまちづくりの推進（具体事業の実施） <p>ロ 伊那谷の広域的な景観育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広域（自治体会議、県） 広域景観育成方針の検討（統一看板等のルールづくり）、景観行政団体への移行支援 ○ 地域（市町村、関係団体） ・上記方針を踏まえた景観行政の推進 <p>ロ 交通体系（二次交通）の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広域（自治体会議、県） ・伊那谷の交通ネットワークの検討 ・公共交通（バス、鉄道）の利活用策検討 ・飯田線乗換新駅設置の検討（飯田市） ○ 地域（市町村） 地域内公共交通施策の展開 	
<p>■ 未来技術の導入とスマートシティの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動運転やライドシェアなど次世代の交通手段の研究（二次交通） ・低炭素エネルギーによる環境都市づくり（ゼロエネルギービル等） ■ グリーンインフラの展開 ・伊那谷を一体的にとらえ、自然環境に配慮した広域的な景観形成への取組（統一案内看板の導入検討などを含む） ■ 都市の拠点機能の向上 ・MICE、滞在、文化交流等の都市活動を支える機能の強化 ■ 飯田線乗換新駅設置 ・設置に向けての検討（構造、設置費用） ・リニア長野県駅とのアクセスの検討 ・JR東海への働きかけに係る調整 	<p>■ 広域交通拠点、多様な交流の起点となるリニア駅周辺のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多面的な機能が期待できるグリーンインフラの導入 ・再生可能エネルギーの活用等、低炭素化の推進 ■ リニアを活かした市内各拠点のまちづくり ・中心拠点（まちなかMICE等） ・広域交通拠点及びその周辺（新たな産業振興の拠点等） ・交流拠点（新たな観光施設の創設等） ・地域拠点（田園回帰施策等） ■ JR飯田線乗換新駅設置 ・リニア駅から飯田線へ乗り換えするための新駅設置を検討 	<p>■ 交通（ゲート・ツー・ドアの実現）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次交通の確保 ・高速バスの定時運行 ・デバロッパーの誘致 ・地域の魅力発信拠点化等 ・JR飯田線の活性化 ・交通インフラ間の結節、イベント列車の運行等 ■ 住居（コンパクトシティの形成） ・ゾーニングによる土地利用 ・子育て、若者、高齢者世代、クリエイティブ層 ・リノベーションの推進 ・空き家バンクの登録拡大、サテライトオフィス等の立地促進 ■ 地域活力（官民協働による地域シリエンスの強化） ・バーチャル・マーケットの実施 ・マイタウンマインドの醸成 ・公共交通の維持・持続 ・定住自立圏の形成 	<p>■ 中央アルプス山麓の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央アルプス山麓一体の魅力づくり、新たな観光資源、交流拠点づくりの推進 （大使村構想） ・大使館交流の場としての国際会議（MICE）、ワールドブース、レストラン等の場で世界的な魅力発信 （健康の森構想） ・森林セラピー、グリーンな健康産業、産学官連携健康プログラム等、駒ヶ根＝健康の場発信 （自然エネルギーの活用） ・小型モビリティ（自動運転）実証 ■ 市街地再構築（リノベーション） ・集約型都市づくりの推進 ・市街地再開発の検討 ・JR飯田線駒ヶ根駅の利活用 ■ 次世代に伝える景観創り ・自然と調和したまちなみ創造 	<p>ロ リニア関連道路、SIC等のインフラ整備（現在推進中）</p> <p>ロ 民間投資による拠点整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広域（自治体会議、県） まちづくり勉強会・事業者との情報交換会、交流拠点機能（MICEなど）の検討 ○ 地域（市町村） 構想・計画に基づきまちづくりの推進（具体事業の実施） <p>ロ 伊那谷の広域的な景観育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広域（自治体会議、県） 広域景観育成方針の検討（統一看板等のルールづくり）、景観行政団体への移行支援 ○ 地域（市町村、関係団体） ・上記方針を踏まえた景観行政の推進 <p>ロ 交通体系（二次交通）の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広域（自治体会議、県） ・伊那谷の交通ネットワークの検討 ・公共交通（バス、鉄道）の利活用策検討 ・飯田線乗換新駅設置の検討（飯田市） ○ 地域（市町村） 地域内公共交通施策の展開 	

②移住定住・広域観光

リニアバレープロジェクトに関する取組の整理②

	地域としての取組事例			テーマ設定・取組主体・展開方針
	飯田市	伊那市	駒ヶ根市	
②伊那谷の定住・交流人口の増加 ＜取組コンセプト＞ ▶ 定住・交流人口の増加 ▶ 観光の産業化とキラークンテンツの創出	【出典】 「リニア駅周辺整備基本計画」の考え方、リニアを活かしたまちづくりの展開	【出典】 INA Valley リニア・ムーヴメント10	【出典】 駒ヶ根市まちづくり構想図、「中央アルプス山麓」活用プラン概要等	広域的な取組と地域的な取組、及び主体についての整理 ※事務局整理
■戦略的な移住定住・二地域居住策の展開 ・クリエイティブ人材(IT、アート、起業家など)の誘致 ・受入環境(インフラ：居住、教育、医療等)整備と効果的なプロモーション展開 ■観光におけるキラークンテンツの形成 ・マーケティングに基づく観光開発(理由・目的・必然性の追求) ・食や農、自然、健康長寿をテーマとした体験型観光ツーリズム ・アルプスに着目した山岳観光地づくり、広域観光ルート形成 ・山岳観光開発における規制緩和、ヘリコプターの活用 ・ハイエンドのリピーター対象としたホテル、旅館、オーベルジュ等の誘致 ・インバウンド対応(観光案内、公衆無線LANなど) ・観光に携わる人材の育成、関係機関などの誘致	■リニア駅周辺の取組 ・魅力発信施設の整備(賑わいのあるハイウェイオアシス的な施設整備) ・地域の魅力の紹介や体験を通じて訪問したくなるによる仕掛けづくり ■交流・定住、田園回帰の推進 ・田舎へ還ろう戦略 ・利便性と暮らしやすさを追求した居住エリアの整備 ・低炭素な暮らしの創造(環境配慮型住宅整備の推進) ・農ある暮らしの推進、ワークインレジデンス ■魅力発信・観光振興の取組 ・新たな観光施設の創造(天龍峡の再生と遠山郷の魅力発信) ・飯田ツーリズムの発展(サイクルツーリズム、農家民泊、体験教育旅行)	■移住・定住(「農林+教育」によるアプローチ) ・体験交流の推進 ・グリーンツーリズム等推進 ・人口流入の促進 ・二地域居住の促進、トータルコーディネート ・農林業の就業促進 ・コミュニティ機能の強化 ・田舎暮らしモデル地域の指定 ・独自の教育風土 ・郷土愛の醸成 ■観光(グローバル・ホスピタリティの実践) ・広域観光の推進 ・ビジネス利用の促進(MICE)、観光戦略組織づくり(DMO)等	■官民連携による定住促進 ・田舎暮らし駒ヶ根推進協議会 ・移住者交流ネットワーク ・農業の担い手の育成 ■地域資源を活かした観光地域づくり ・DMO構築(広域、着地型) ・インバウンド戦略、外国人誘客 ■中央アルプス山麓活用プラン ・ロープウェイと駒ヶ根高原の一体的な魅力づくり ・悪天候でも楽しめる観光拠点づくり(例:spaリゾート) ■中央アルプスのジオパーク化・国定公園化の推進 ・世界基準の山岳観光地づくり ■アンチエイジングのまち ・自然を活かした「食×農×医」を取り込んだ健康観光の開発 ■青年海外協力隊訓練所を活かした人材育成、国際交流 ・語学キャンプ、国際理解教育の推進	□移住定住・二地域居住の推進 ○ 広域 (県) 市町村が進める移住推進策の支援 ○ 地域 (市町村) ・受入環境の整備 ・移住エリアの整備(ゾーニング) ・移住相談・フェアの実施等を含めたプロモーションの展開 □広域観光の推進 ○ 広域 (自治体会議、県) ・広域DMOの立上げの検討(広域的観光推進体制の検討) ・観光開発等に伴う規制緩和 ・リニア駅周辺での広域的な観光案内の仕組の検討(飯田市のリニア駅周辺整備と連携して検討) ○ 地域 (市町村) 地域の観光資源を活かした観光振興策の推進・観光商品の開発

具体の取組事項

③ 産業振興

リニアバレープロジェクトに関する取組の整理③

	地域としての取組事例			テーマ設定・取組主体・展開方針
	飯田市	伊那市	駒ヶ根市	
<p>③ リニアを活かした産業振興</p> <p>〈取組コンセプト〉</p> <p>➢ リニア開業を見据えた次世代産業創出</p>	<p>【出典】</p> <p>「リニア駅周辺整備基本計画」の考え方、リニアを活かしたまちづくりの展開</p>	<p>【出典】</p> <p>INA Valley リニア・ムーブメント10</p>	<p>【出典】</p> <p>駒ヶ根市まちづくり構想図、「中央アルプス山麓」活用プラン概要等</p>	<p>広域的な取組と地域的な取組、及び主体についての整理</p> <p>※事務局整理</p>
<p>■伊那谷の強みを活かした産業振興</p> <ul style="list-style-type: none"> 航空宇宙産業分野と連携した産業振興 農畜産業の活性化(アグリノバ-ション)策の推進 農産物の新たなブランド化と付加価値の高いアグリビジネス推進 豊かな森林資源の活用 <p>■グローバル活動拠点を目指した取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際空港との近接性を活かし、外資系企業やグローバル活動圏で活動する企業の本社、研究機能など中枢機能の立地促進 	<p>■新たな産業振興の拠点形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な「知」が集積する産業振興拠点の形成(航空宇宙産業クラスター形成特区、研究開発事業の拠点施設、信州大学航空機システム共同研究講座開設) <p>■企業誘致の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 本社機能・研究開発型企業への誘致 <p>■地域経営事業体との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域に根ざした産業を支援 6次産業化の推進 <p>■農林産物のブランド構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域産材(遠山杉) 市田柿 	<p>■雇用(リーディング・カンパニーの育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学生等の地元定着(就職準備合宿の開催、企業情報の収集と求職マッチング) 女性の活躍の場の創出 働き方改革の推進 <p>■産業(未来創造型ビジネス環境の構築)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「知」の循環による地域リニュー-ション(アグリノバ-ション推進、産業クラスター形成) 自然エネルギーの地産地消 テクノロジーの活用 6次産業化の推進 	<p>■ものづくり産業ビジョンの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 次世代成長産業の振興、中小企業の経営基盤強化(テクノネット駒ヶ根等) 雇用の場の拡大に向けた企業誘致、雇用確保 人材の確保と育成 <p>■テレワークによる働き方改革</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業誘致やテレワークのためのサテライトオフィスの整備 UIIターン促進、人材確保 <p>■健康産業の集積</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康長寿を背景に地域基幹病院、県立看護大学との連携 <p>■6次産業化による産業振興</p> <ul style="list-style-type: none"> 特産品開発による地域ブランドの創出(地ビール、ウイスキー) 	<p>□産業振興の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○広域(県) <ul style="list-style-type: none"> 航空機システム分野の拠点づくり 農畜産業の活性化とブランド化推進 農業と地域の食品製造業との連携や都市農村交流などアグリビジネスの展開 森林資源の活用 市町村の取組(企業誘致等)の支援 ○地域(市町村) <ul style="list-style-type: none"> 構想・計画に基づき産業振興施策の推進 <p>□ICT利活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○広域(県、市町村、民間) <ul style="list-style-type: none"> 実証実験、モデル事業の展開、参画(医療・福祉、教育分野等) スマート農業の展開 ○地域(市町村、民間) <ul style="list-style-type: none"> 情報通信基盤の改善、整備
<p>■具体的取組事項</p>				

■リニアバレープロジェクトのうち、県域をまたいだ共通する課題については、岐阜県・山梨県との連携を想定

【想定テーマ】山岳観光、芸術文化、大都市圏における巨大災害時のバックアップなど

JR飯田線乗換新駅設置に関する検討会議(プロジェクトチーム)

(1月20日)伊那谷自治体会議資料③

1 検討内容

- ① 設置位置及び駅舎の構造
(費用負担のあり方)
- ② ①に関するJR東海との調整
- ③ JR飯田線の利便性・速達性の向上
- ④ リニア駅とのアクセス手法
(近未来技術を含めた検討)

〔※飯田線の活性化策については、JR飯田線活性化
期成同盟会において別途検討していく。〕

2 体制

(ア) ①～③に関する検討

- ・ 飯田市(検討主体)、伊那市、駒ヶ根市、上伊那広域連合、南信州広域連合
- ・ 県(リニア整備推進局、交通政策課、上伊那地方事務所、下伊那地方事務所)
9名

※構成機関の部課長及び事務局長で構成

※技術的な部分については、鉄道・運輸機構、(公財)鉄道総合技術研究所などの
専門機関の助言を得ながら議論を進める。

(イ) ④に関する検討(上記の(ア)に加える)

- ・ 有識者(都市計画、交通政策)
- ・ 関係の民間事業者(交通、技術)

(ア)+a名

3 スケジュール(案)

